

広報南丹

こうほうなんたん

Nantan City PR Magazine

2023
6-7
Vol.119

今月の内容

漫画で解説

「南丹市の財政を追え」

第4期南丹市福祉計画・地域福祉活動計画を裁定

「ともに支えあう地域を目指して」

自分の限界に
挑戦!!

特集



南丹市がロケ地になった映画「唄う六人の女」の魅力を徹底解剖



映画がうまれる まち南丹市



唄う六人の女



10月全国公開



映画

唄う六人の女とは？

南丹市で撮影された映画「唄う六人の女」。車の事故で美しいある村に偶然迷い込んだ正反対の性格の二人の男、萱島（竹野内豊）と宇和島（山田孝之）。
目が覚めると、その村に住む美しくも奇妙な六人の女たちに監禁されている。
果たして二人はどうなってしまうのか。神秘的な森の中で展開されるスリリングな展開と出演者の艶やかな演技に刮目必至。

数多くの映像作品のロケ地に選ばれる 南丹市の魅力は？



本作の撮影地となった南丹市は、森林面積が市の総面積の88%を占めており、中でもロケ地の美山「芦生の森」は、手つかずの天然林を保有し、数多くの植物や動物、昆虫が共生する地です。
「唄う六人の女」では作中に森からのメッセージが多く込められており、日本の原風景を残す美山の自然は本作品の撮影地に最適だといえます。



南丹市で 映画のロケ地を 巡ってみませんか？



① かやぶきの里



横浜流星主演
「Village」のロケ地

日本の原風景と呼ばれる美山かやぶきの里には数多くのかやぶき民家が現存し、平成5年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。ノスタルジックな里山の風景は四季折々の魅力にあふれ、訪れる人の心を癒す。

③ 摩気神社

園部町の最西端に建てられた神社で、一番の特徴は茅葺の屋根を纏った本殿。京都府指定文化財にもなっており、その趣深さは一級品。



小栗旬主演
「信長協奏曲」のロケ地

② 日吉ダム



沢村一樹主演
「刑事ゼロ」のロケ地

豊かな自然と重厚なダムが織りなす景観は、1999年日本建築学会賞を受賞している。ダムの隣にはスプリングひよしがあり、天然温泉やプール、キャンプやバーベキューなど様々なアクティビティを楽しむことができる。

映画が生まれるまち

その昔、南丹市には二つの映画館があり、多くの住民が映画を楽しみました。娯楽が少なかった時代に、人々は映画の中に見つけた夢や希望を心に蓄え、感動を分かち合い、心と心を通わせながら力強く生きてきました。当時、私たちのこの地域に活気もたらし、彩を添えたのは、まさに映画文化だったのではないのでしょうか。

東映太秦映画村から程よい距離にあり、映画やドラマなどのロケに適したまちとして、南丹市ではこれまでから多くの映像作品が撮られてきました。そんな背景から南丹市はアニメや映像等のコンテンツ関連産業の集積促進地域として京都府からも指定されています。

昨年春に映画「唄う六人の女」が南丹市美山町の芦生の森を舞台に撮影されま

した。この映画は新型コロナウイルス感染症拡大により疲弊した地域に元気を取り戻し、映画製作をきっかけとした地方創生の取組を進めています。

南丹市はこの映画撮影に協力するだけでなく、取組に主体的に参加し、知名度の向上とシビックプライドの醸成、地域文化の振興、市の一体感の創出、交流人口の拡大、地域の活性化など、まちづくりにつなげていきたいと考えています。あわせて『映画が生まれるまち南丹市』をメインコンセプトに、映画文化を見直し、今後はクリエイターを応援する環境づくりや本格的なフィルムコミッション事業への展開も計画しています。

まだまだ続く

「唄う六人の女」

プロジェクト

年内には南丹市内で上映会を開催予定！

※画像はイメージです



最新情報は南丹市公式 Instagram にて随時発信！！

右のQRコードからカンタン登録▶



ともに支え合う 地域づくりを目指して 第4期南丹市地域福祉計画

南丹市イメージ
キャラクター
さくらちゃん



地域福祉活動計画

を策定しました!!

南丹社協マスコット
ニャンたん



Interview

南丹市

なんたんし



なんたんししゃかいふくしきょうぎかい

南丹市社会福祉協議会

地域福祉計画

- ◆市が策定
- ◆各福祉計画の上位計画
- ◆地域福祉を推進するためのしくみをつくる計画

地域福祉活動計画

- ◆社会福祉協議会が策定
- ◆地域福祉を推進するための実践的な活動・行動計画
- ◆具体的な行動や各機関の役割分担などが明示される

人間関係の希薄化

「計画策定の背景を教えてくださいいただけますか？」

南丹市では、少子高齢化と人口減少が継続して進んでおり、価値観や生活習慣の多様化も加速しています。

具体的には単身世帯やひとり暮らし高齢者、高齢者世帯が増加するなかで、身近な生活課題を地域の中で解決することのできる関係性が薄れ、伝統的な「地域の『支え合い』の力（＝地域の福祉力）」の低下が危惧されています。

「確かに地域で何かをするといふ機会が減っていますね…」

特に、令和2年に始まった新型コロナウイルス感染症の影響は大きいです。

コロナによる影響



コロナの蔓延は住民が主体となる地域の支え合いやつながりづくりの活動を長期間停滞させたことに加え、生活不安やストレスの拡大等を背景とした、福祉課題を有する人の増加にも、大きな影響を及ぼしたと考えています。

こんな現代だからこそ
誰もが役割を持ち、

支えあう地域づくりを
すすめる必要があります。



「地域の すべての人が見守り合う」

これが解決の第一歩です

計画が目指す姿

—具体的な計画の内容を教えてください

基本理念や基本目標は前期計画より踏襲しており、住民同士の身近なところから地域課題に向き合う地域、そして、その地域づくりを後押しするための支援・体制づくりを引き続き進めます。

ただし、前期計画期間を終えて見えてきた課題をもとに基本方針や施策体系を見直し、特に今期計画からは「成年後見制度利用促進基本計画」を包含して策定するなど、安心して自分らしく住み続けられるまちをさらに推進していきます。

総合相談機能へ

—今期計画のポイントを教えてください

今期計画では、前期計画期間においてそれぞれの場所で育まれてきた組織や人たちが相互につながりながら、地域だけでは解決が難しい課題や、反対に、専門職だけでは解決が難しい課題に向けて協働する「総合相談機能」の強化を目指します。

—組織の垣根を越えて協力していくということですね。



◀ 総合相談機能の具体例

誰も取り残さないために



「地域の力」と「専門分野の力」をつなぐ 架け橋 を作りたい

— 4期計画で総合相談機能の強化を取り入れた理由は？

現代では、高齢、障がい、子育てなど、分野ごとにある仕組みや制度だけでは解決できない課題が増えています。複合的な課題を解決するためには、地域を含む様々な主体が協働する必要がある、前期計画では、その土台づくりとして、地域と各分野それぞれにおいて、支え合いの組織や仕組みの整備・強化を進めてきました。

そこで今期では、地域と各分野をつなぐ架け橋を築くため、総合相談機能を強化することとしました。

皆さんの力が必要

— 私たちができることはあるのでしょうか？

今期計画では、総合相談機能の強化を図る一環として、行政や専門機関が積極的に働きかけて情報や支援を届ける「アウトリーチ」の強化を進めます。

ただし、これまで相談機関があがってこなかった潜在化した課題の早期発見には、住民の皆さんのご協力が不可欠です。地域の中で少しでも気になることがあれば、行政や専門機関に、まずは相談してみてください。

どんな相談でも
お待ちしております



— 最後に一言

地域福祉を進めるためには、地域住民と地域の多様な主体が連携、協働していくことが不可欠です。「支え手」・「受け手」という関係を超えて、今後とも、地域福祉の主役となる皆さんの一層のご協力をお願いします。

市民の皆さんよりご協力を多数いただきました

本計画策定にあたり、アンケート調査や成年後見制度に関する意見交換会、2日間にわたるワークショップ（U50な tantan地域サミット）の開催や計画素案に対するパブリックコメントなど、様々な機会で市民の皆さんより多くのご意見をいただき、地域福祉計画推進委員会において審議いただきました。ありがとうございました。

本計画の詳細は、南丹市役所福祉相談課と各支所総務課で閲覧いただけるほか、南丹市ホームページにも掲載しています。

【お問い合わせ先】

福祉相談課（0771）6810023

— 総合相談機能について
もう少しお伺いできますか？

総合相談機能とは？

総合相談機能とは「住民」・「事業者」・「社協」・「市」で構成され、各主体で出てきた課題を整理し、見通しを立てる、地域と専門分野をつなぐ機能のことです。



地域おこし協力隊レポート



-27-

こんにちは。地域おこし協力隊の永尾です。私の活動テーマは「地域資源の付加価値向上」。南丹市の素材の魅力をより多くの方に知っていただけるように、美山町安掛にセレクトショップ「里のごほうび みやま堂」を今年3月21日にオープンしました。まちの商店を改装し、棚やショーケースなどはそのまま活用。食の加工品を中心に、お土産やちよっとした贈り物に使いたくなる地元の手づくり商品を陳列・販売しています。

地域の素材を組み合わせた新しいメニュー開発なども行っています。例えば、南丹市で苗から育てられたさつまいもと内久保集落の粉山椒を使用した「かやぶきけんぴ美山山椒」、美山の平飼卵の卵焼きを下吉田集落の味噌を使ったソースで仕上げた「たまごサンド」など。

さらに地域のお弁当・惣菜を手がける「縁屋」様と一緒に、地域の旬の食材をふんだんに使用した「里のごほうび弁当」を企画しています。季節ごとにテーマを決めて、毎月おかずのラインナップを入れ替えています。6月

は、朴葉で包んだ豆ごはんに完熟柚子胡椒を使った京美白どりのかを、昔ながらの竹皮のお弁当箱に詰め込んでいます。みやま堂で第二・第四土日販売、電話でご予約も可能です。（永尾まで）

今後も南丹の素材・作り手・文化を生かした商品・体験企画を行っていきま



問い合わせ先 永尾隊員

電話 080-4767-4317

メール nagaotoshiharu113@gmail.com

南丹市の財政を追え

今日は南丹市の財政を詳しく知るために市役所に来てきたニャ



お待ちいたしました。財政についてのお問い合わせですね！



そもそも財政って何？

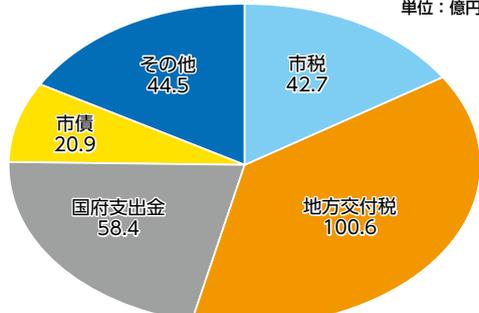
市民の皆さんが住みやすいまちにするために、お金を集めてくることと、

集めたお金を保育所、小・中学校の運営や道路整備など、どのように使うか決めることを財政というんです。

南丹市にはどれくらいのお金が集まって、どれくらい出ていくニャ？

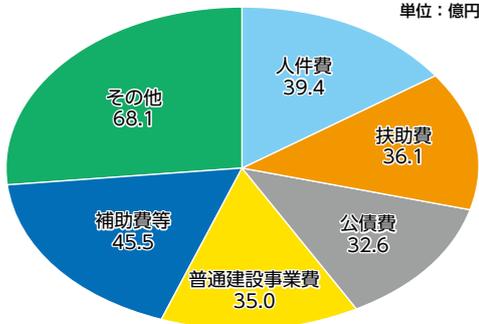
南丹市の令和3年度の一般会計などの収入は267.1億円ありました。支出は、256.7億円でした。

収入(歳入) 総額267.1億円



市税 (市民のみなさまから集めたお金)
 地方交付税 (地方の実績をみて国が配分するお金)
 国府支出金 (国や府からのお金)
 市債 (市の借金)
 その他 (基金からの繰入金など)

支出(歳出) 総額256.7億円



人件費 (職員の給料や議員・各委員の報酬など)
 扶助費 (生活保護や児童福祉などの社会保障のための経費)
 公債費 (市債の元金や利子を支払うための経費)
 普通建設事業費 (工事や建物を建てるための経費)
 補助費等 (いろいろな活動を支えるための補助金)



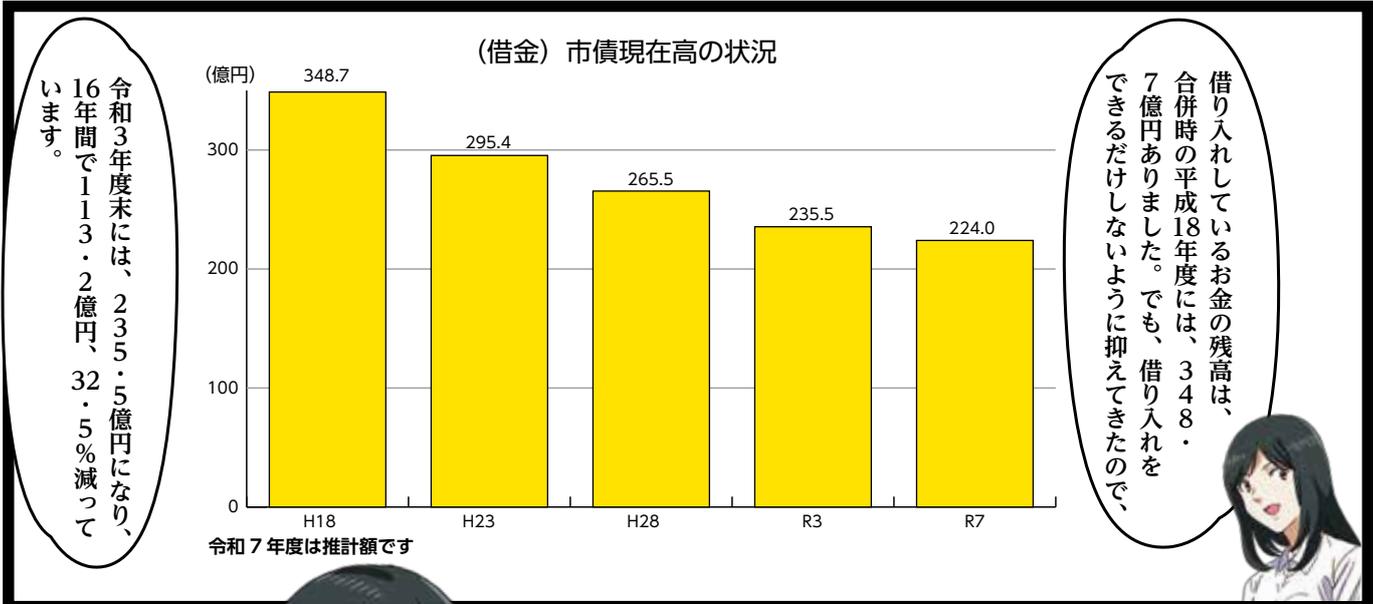
南丹市が借り入れ
しているお金はどれ
くらいあるニャ？

そうだったんだ



そこで、銀行などから
の借り入れや貯金を取
り崩して足りないお金
を賄っているんです。

収入の方が多く、支出
が少ないので、黒字に
なっているけれど、実
は、市税や国などから
入ってくるお金だけで
は足りないんです。



令和3年度末には、235.5億円になり、
16年間で113.2億円、32.5%減って
います。

借り入れしているお金の残高は、
合併時の平成18年度には、348.7
7億円ありました。でも、借り入れを
できるだけ抑えてきたので、



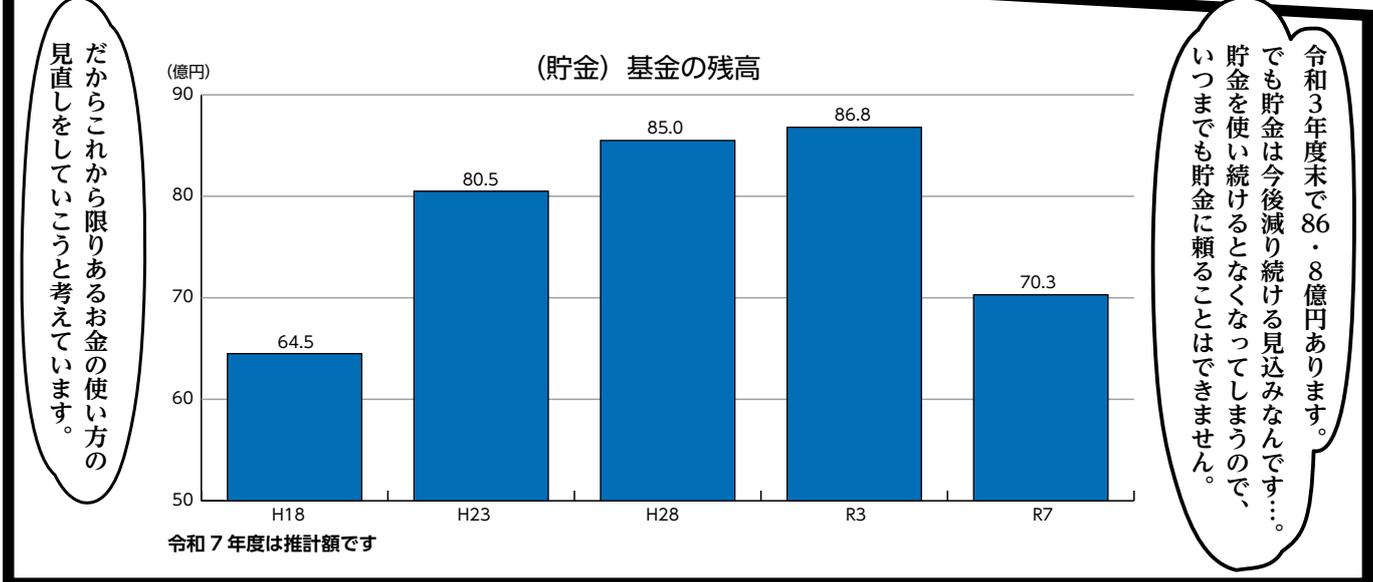
下のグラフをみて
ください。

大丈夫ですよ。
今日は何でも
聞いてください。



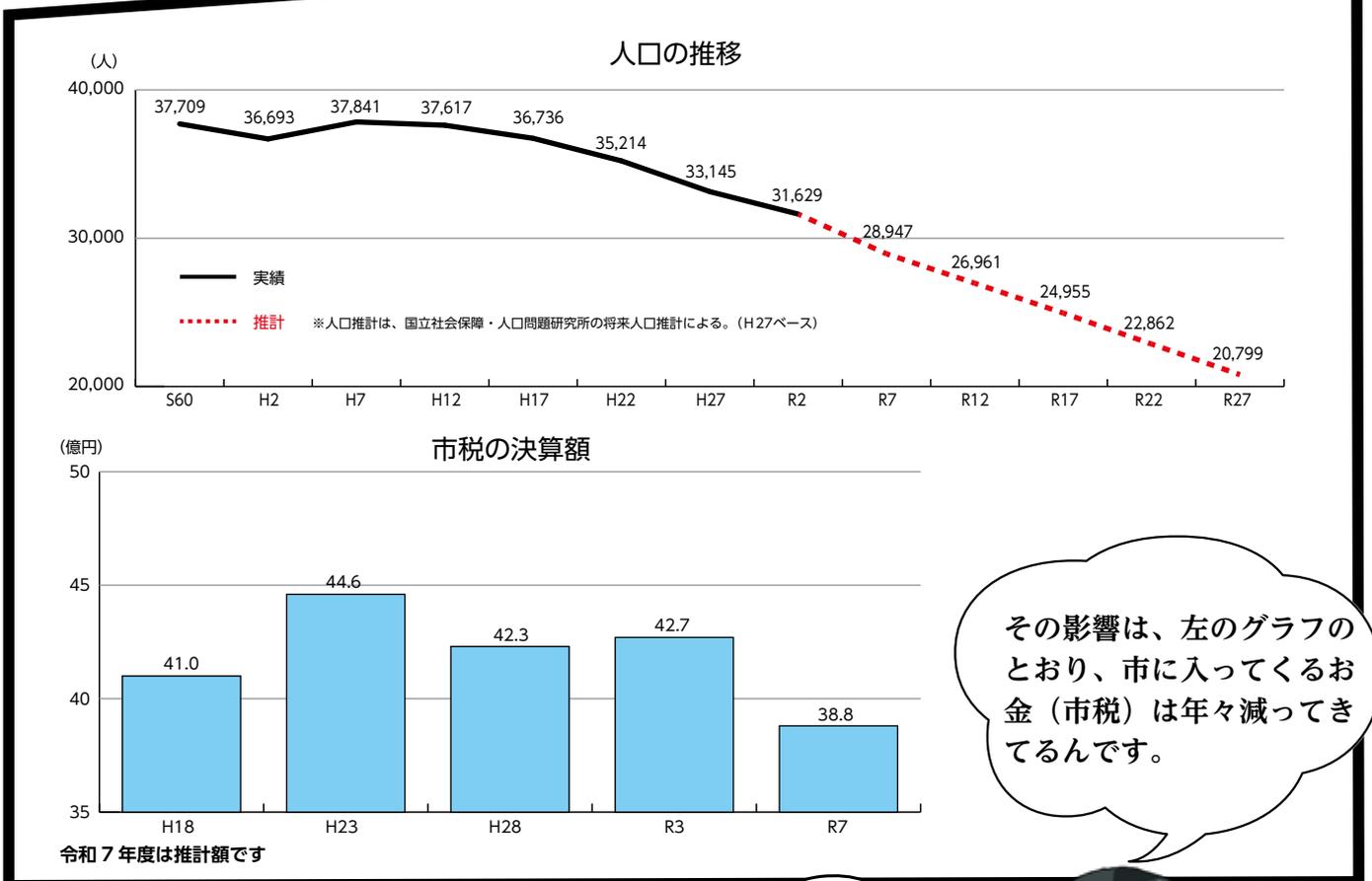
南丹市の貯金は
どれくらい
あるニャ？

ちよつと
聞きづらいん
だけども...

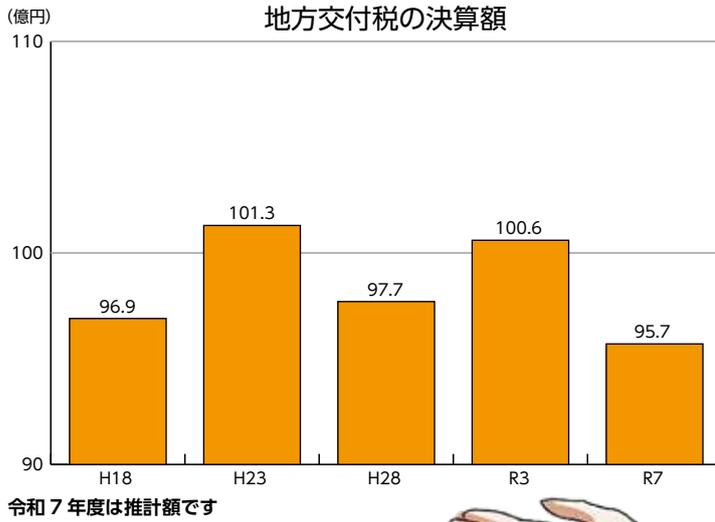


だからこれから限りあるお金の使い方の
見直しをしていこうと考えています。

令和3年度末で86.8億円あります。
でも貯金は今後減り続ける見込みなんです...
貯金を使い続けるとなくなってしまうので、
いつまでも貯金に頼ることはできません。



そのほかにも、国から南丹市へ交付されるお金もあるけれど、これも徐々に減っていく見込みです。入ってくるお金が減ると自由に使えるお金が少なくなるということになります。



家計に例えると、自由に使えるお金がないので、欲しいものを我慢するのと同じですね。

これからの南丹市はどうなるのかニャ...?

今後の方針

今の南丹市は、他の多くの自治体と共通する課題ですが、少ない人口(3万人)、広大な面積(616.4km²)低い人口密度(51人/km²)3人に1人が高齢者となる高い高齢化率(35%)などから、多くの貯金を取り崩さないと予算が組めない「赤字体質」が続いており、厳しい財政状況となっております。

さらに今後も、人口減少と高齢化は、間違いなく進み続

け、収入も減ることが見込まれるため、このままでは、市の財政が行き詰まってしまう。

このため、収入に見合った支出を基本とする財政構造としていくため、公共施設の圧縮や歳出の見直しによる市の財政規模のコンパクト化が必須となります。

これからの南丹市を担っていく次の子どもたちの代までしっかりと「持続していく」ために、南丹市の赤字体質を「変えていく」しかありません。そして明るい未来へ向かっていくため、財政をしっかりと立て直していくための取り組みを進めていきます。市民の皆様には、ご理解・ご協力をお願いいたします。

次のページでは令和四年度の予算執行状況を説明するニャ



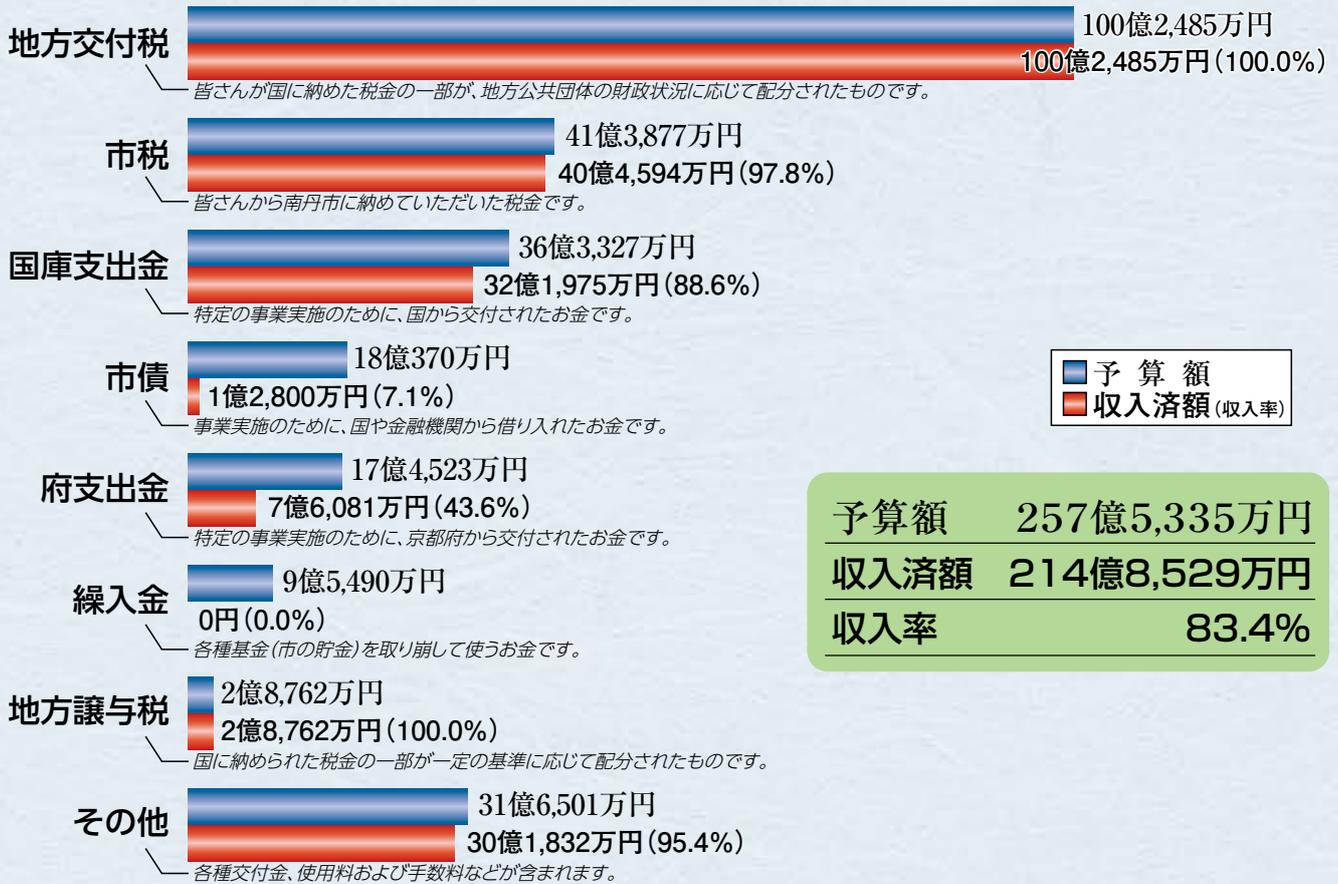
令和4年度予算執行状況

市民の皆さんの税金がどのように使われ、市の財政がどのような状況にあるのかを知っていただくために年2回財政状況を公表しています。

今回は、令和4年度予算の下半期の執行状況(令和5年3月31日現在)をお知らせいたします。

一般会計 <<歳入>>

※ 繰越予算額を含む
※ 単位未満四捨五入



市民1人あたりに
使われる市のお金
85万円

市民1人あたりが負担
する税金(市税)
14万円

1世帯あたりに使わ
れる市のお金
180万円

1世帯あたりが負担
する税金(市税)
29万円

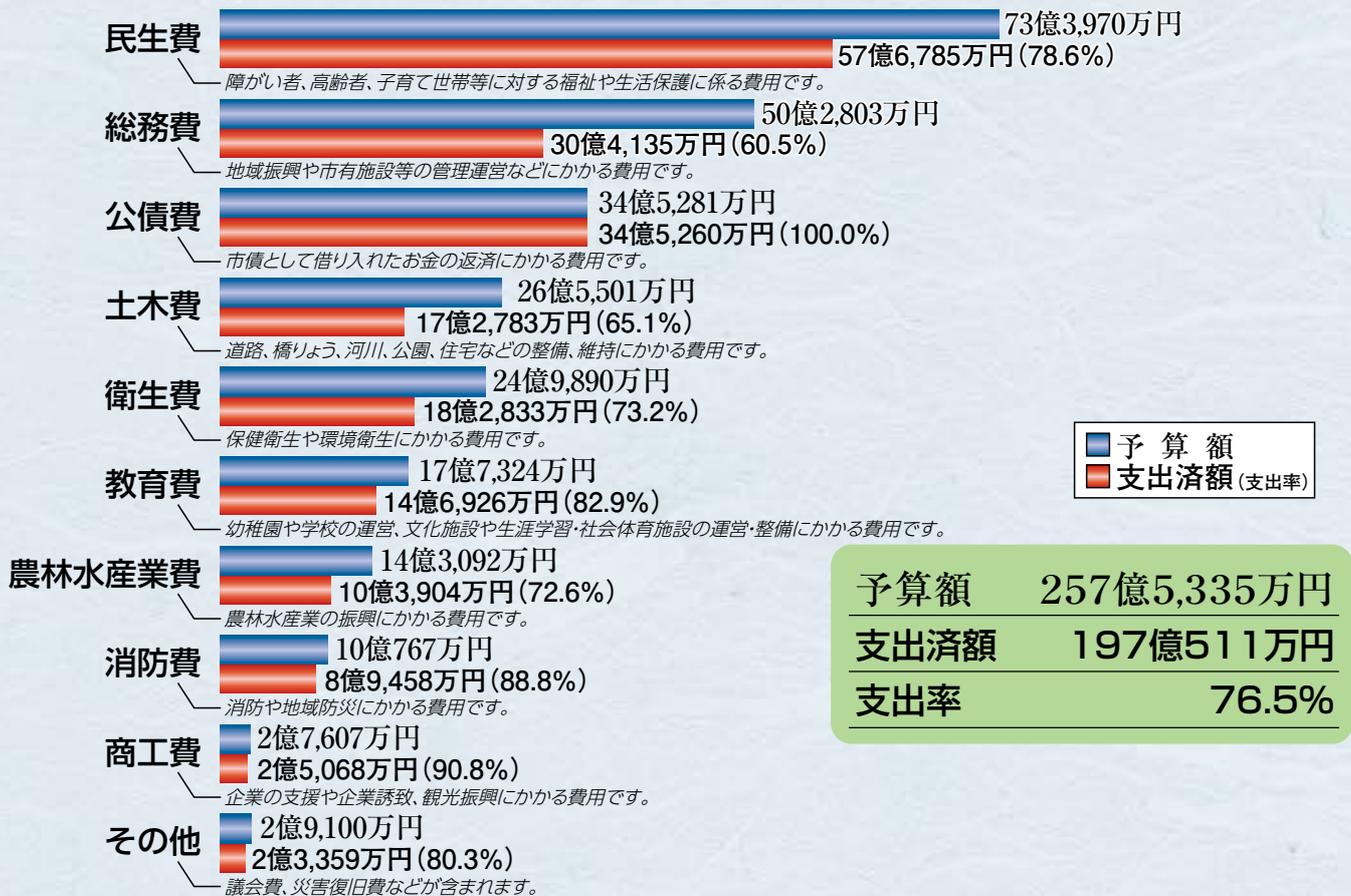
◆算出方法◆

市民(世帯)に使われるお金=総予算 ÷ 人口(世帯数)
市民(世帯)が負担する税金=市税予算 ÷ 人口(世帯数)

※令和5年3月31日現在の
人口 30,242人 世帯数 14,269世帯

一般会計 <<歳出>>

※ 繰越予算額を含む
※ 単位未満四捨五入



特別会計

※ 繰越予算額を含む
※ 単位未満四捨五入

名称	予算額	収入済額	収入率	支出済額	支出率	
国民健康保険事業	事業勘定	36億3,797万円	31億2,638万円	85.9%	34億2,099万円	94.0%
	直診勘定	2億1,484万円	1億1,195万円	52.1%	1億7,221万円	80.2%
介護保険事業	43億6,552万円	36億5,781万円	83.8%	37億7,290万円	86.4%	
市営バス運行事業	6,723万円	2,532万円	37.7%	5,700万円	84.8%	
土地取得事業	16万円	5万円	31.3%	5万円	31.3%	
後期高齢者医療事業	5億8,173万円	5億3,075万円	91.2%	4億4,597万円	76.7%	

公営企業会計

※ 繰越予算額を含む
※ 単位未満四捨五入

名称	区分	収入予算額	収入済額	収入率	支出予算額	支出済額	支出率
水道事業	収益的	9億8,336万円	10億1,002万円	102.7%	10億4,695万円	9億9,046万円	94.6%
	資本的	3億9,882万円	3億8,590万円	96.8%	9億8,591万円	9億6,274万円	97.6%
下水道事業	収益的	27億117万円	26億6,624万円	98.7%	24億8,398万円	24億4,314万円	98.4%
	資本的	9億8,665万円	9億3,848万円	95.1%	18億5,800万円	17億9,689万円	96.7%

▶講演をされる相澤氏



5月3日、国際交流会館イベントホールで、南丹お城サミットが開催されました。

講演には南丹市文化観光大使・日本城郭史学会員である相澤正久氏(株式会社サンミュージックプロダクション代表取締役社長)を講師としてお迎えしました。

相澤氏は新庄城の城主である井上氏にゆかりがあり、新庄城の歴史を紐解きながら南丹市の魅力を語っていただきました。また、講演後の質問コーナーでは歴史に想いを馳せる多くの来場者から講演の感想や意見があり、南丹市のお城を通して終始和やかな会話が繰り広げられました。

(5月3日 南丹お城サミット)

「お城でまちおこしイベント開催」



▲サツマイモの苗を植える園児たち

5月23日、京都丹波もん管理農場で、南丹市内の各保育所から4・5歳児の園児がサツマイモの苗植えを行いました。

イベントには園部保育所、城南保育所、南丹のぞみ園の園児約70名が参加しました。

園児が植えた苗は農芸高校の生徒がこの日のために丹精を込めて育てたものです。収穫祭は秋に行われ、収穫したサツマイモは苗植えに参加された各保育所・園に配られたり給食センターに一部寄付される予定です。

園児たちは、初めての体験と土の硬さに圧倒されながらも、「もっと植えたい」と積極的に苗を植える様子が見られました。

(5月23日 保育園児合同苗植え)

「保育園児はじめての苗植えに挑戦」

「スポーツ少年団ゲームで交流」



▲交流後、記念撮影する様子

4月16日、園部町のり渓温泉を会場に南丹市スポーツ少年団レクリエーション交流会が開かれ、南丹市スポーツ少年団所属団体の中から6団体、小学生4年生から6年生までの78名が参加しました。

レクリエーションでは、○×ゲームや8人9脚にチャレンジ。普段のチームを超えて交流し、親睦を深める一日になりました。

お昼には、京都市るり渓温泉 for RESTRESORTから、おにぎりやお肉などが提供され、バーベキューを楽しみました。

(4月16日 南丹市スポーツ少年団レクリエーション交流会)



▲会見を行う西村市長ら5市長とJR西日本関係者

4月10日、JR西日本×沿線自治体「おためし暮らし」の共同記者会見を、オンライン中継で開催しました。

都市通勤者がテレワークと出社を組み合わせ、地方で居住するライフスタイルを提唱するため、JRと南丹市・丹波篠山市・高島市・和歌山市・甲賀市による共同プロジェクトで、おためし住宅を貸し出すとともに、JRが通勤費などを支援します。

この取組を通じて、南丹市へのおためし暮らしをPRするとともに、都市から地方への流れを加速させる大きな動きに成長させていきたいと考えています。



▲会見を行う内藤久士JR亀岡駅長と西村市長

（4月10日）「おためし暮らし」共同記者会見

「テレワークときどき出社で地方移住」



▲ロードレースの様子

京都、美山サイクルロードレースが5月27日、28日に開催されました。

30年以上の歴史を持つ美山サイクルロードレース、通称「美山ロード」。天候にも恵まれ、大会初日はタイムトライアル、2日目はロードレースというプログラムで実施され、参加者は年齢や実力に応じて複数のコースから自分に合ったコースを選択。

大会は2日間で合わせて約700名がエントリーし、年齢層も幅厚く大盛況のうちに終了。伝統ある公道レースを多くのライダーが颯爽と駆け抜けた大会となりました。

また、会場には、美山ふるさと市と称した飲食店の出店ブースが設けられ、地元住民と観戦に来られた市外の方々の交流も見受けられました。



▲美山ふるさと市

「サイクルスポーツを通じた市民の交流」

（5月27、28日）美山サイクルロードレース

なんたんの景観ちょっと情報



【田園と景観】

毎年6月1日は景観の日と定められています。景観法の施行日である平成17年6月1日に開催された「日本の景観を良くする国民大会」の決議を受け、景観法の基本理念の普及や、美しく風格のある景観づくりの意識啓発を目的として定められました。

南丹市では、4月下旬から各地域で田植えが始まっています。この時期の田んぼは、水面に芽吹き始めた新緑や家屋を映し、美しい田園風景を演出しています。今回は、そんな各町の田園風景を紹介します。

景観の小窓



第49景



(園部町地域：曾我谷)



(八木町地域：西田)



(日吉町地域：胡麻)



(美山町地域：向山)

問い合わせ先
地域振興課
TEL (0771) 68-0019
美山支所総務課
TEL (0771) 68-0040



※景観条例(計画)の詳細は市HPに掲載しています。

市民の皆さんをはじめ、南丹市に関わる多くの方々と一緒に、優れた景観を守り育てていきたいと考えていますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

南丹市では「景観条例」を制定しており、計画区域内での建築物や工作物の新築・移転、屋根や外壁の塗替え、土地の形質変更や土石等の堆積などを行う場合には、行為の着工30日前までに市への届出が必要です。

景観計画区域：美山町地域

届出対象行為は、工事着工の30日前までに市へ届け出ください

南丹市観光協会連絡会だより



南丹市観光協会連絡会
代表 中川 亮

南丹市観光協会連絡会 代表就任のご挨拶

この度、南丹市観光協会連絡会の代表に就任いたしました日吉町観光協会会長の中川亮でございます。重責ではございますが、誠心誠意努めて参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍では、観光客数が全国的に減少しましたが、本年5月8日には感染症法上の位置づけが、2類相当から5類に移行され、南丹市を訪れる観光客も徐々に戻り、賑わいを見せ始めました。また、国は、観光立国推進基本計画(第4次)において、観光をコロナ禍を経て成長戦略の柱、地域活性化の切り札と位置づけており、インバウンドの回復や国内需要の喚起を目指しております。

本連絡会は、各地域の観光協会とDMOで組織し、互いに連携して豊富な観光資源を活かした観光振興を推進しているところですが、このような国の計画にあわせ、より魅力的で持続可能な観光地域づくりを目指して参ります。また、地域の魅力を最大限に生かし、何度も訪れていただく観光資源の発掘にも力を入れて参りますので、皆様には、お力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。

本年度は引き続き南丹市フォトコンテスト・インスタグラムフォトコンテストを実施します。テーマや応募要領等が決まりましたらお知らせいたしますので、皆さまのご参加をお待ちしております。また、昨年度の入賞作品展を各所て予定しております。

最後になりましたが、南丹市の観光振興の推進に向け、皆様方の一層のご指導・ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。

美山町かやぶきの里

一斉放水で観光客を魅了

南丹市美山町北のかやぶきの里で5月19日に防火用放水銃の一斉点検が行われました。コロナ禍以降4年ぶりの一般公開に、訪れた観光客は水のカーテンに包まれた幻想的な山里の風景を楽しみました。かやぶきの里では、伝統的なかやぶき屋根の古民家が数多く保存され、その美しさと歴史的価値に多くの観光客が魅了されています。

今回の一斉放水では、(一社)京都・美山・北村かやぶきの里保存会と(二社)南丹市美山観光まちづくり協会が連携し、初の試みとなる駐車場の事前予約制を実施しました。来訪者の方に駐車場確保の心配なくお越しいただいたとともに、過剰な混雑も回避でき、地域住民の暮らしに配慮した体制で実施しました。

重要伝統的建造物群保存地区のかやぶきの里では、春と秋に地域住民の火災予防講習と放水銃の一斉点検を行われます。今後も訪れる皆さんにこの訓練を通じて、文化財を火災から守る必要性を理解して頂ければ幸いです。





作品名: 特別じゃない毎日
撮影場所: (日吉町) 胡麻駅
撮影者: @matsutabi



作品名: 離水・水しぶき
撮影場所: (園部町) 園部川
撮影者: @ikasamashi1091



作品名: 白い山門
撮影場所: (八木町) 西光寺
撮影者: @gen_kana8787

南丹市
インスタグラム
フォトコンテスト
2023年1月・2月 入選作品
テーマ
「私が好きなこの一瞬」



祝

令和5年 春の叙勲・褒章

重要施設の保全と

建設業界の発展に寄与



黄綬褒章

やまうち もとのり
山内 基義 さん

山内氏は、平成11年4月から現在に至るまでの長きにわたり、(株)共立工務店代表取締役として建設業を営む一方で、平成25年から(一社)京都府建設業協会の役員として、建設業界の発展に寄与されました。

山内氏は、その卓越した技術と長年の経験により、京都丹波高原国定公園のビジターセンター整備工事、京都府登録有形文化財の生身天満宮の拝殿保存修理工事など、数多くの工事を手掛けて実績を築かれ、関係者のみならず周辺住民からも高い評価を得られています。

また山内氏の功績は幅広く、(一社)京都府建設業協会において、新入社員研修のカリキュラムを抜本的に見直し、新入・若手社員のフォローアップ研修を開催されたほか、協会における働き方改革を推進し、業界の発展に大きく貢献されました。

地域の防火

防災活動に尽力



瑞宝単光章

もりやま さとし
森山 悟志 さん

森山氏は、昭和61年4月から、平成30年3月までの32年間、消防団員として南丹市の消防、防災活動に寄与されました。

そのうち11年間に副団長として務められ、冷静沈着に部下を指揮、指導され団員の統率に尽力されました。森山氏の人柄から団員はもとより住民からも全幅の信頼を寄せられています。

また、森山氏は団員の育成や支団及び分団の調整に尽力され、円滑な消防団の運営に寄与されたほか、数多くの災害現場で被害を最小限にとどめる活躍をされました。

加えて、市民の防火意識の高揚を図るため、春秋の火災予防運動期間中には、小中学校等を巡回し、火災発生時の避難方法や火の取扱注意点等を指導されるなど、森山氏は火災予防啓発活動を通して、住民の防火、防災意識の礎を築かれました。

みんなで描こう

協働のキャンバス70

地域のさらなる活性化を目指して！

鶴ヶ岡諏訪神社

「棚野の千両祭」映像記録保存事業

諏訪神社(美山町鶴ヶ岡)の例祭は毎年10月5日ですが、このうち15年に1度の中祭と30年に1度の大祭は「棚野の千両祭」と呼ばれ、平成3年(1991)4月19日に「諏訪神社の祭礼芸能」として、京都府の無形民俗文化財に登録されています。

その歴史は古く、宝永年間(1704)を記す歌本があったようですが、焼失したと言われており、近くは明治に2回、大正に1回、昭和に2回、平成に2回催行されました。

棚野とは、鶴ヶ岡地域の5つの



▲大字鶴ヶ岡の神楽を見つめる子どもたち

大字(高野・鶴ヶ岡・豊郷・盛郷・福居)の総称で、大字ごとに異なる民族芸が奉納され、その華麗さと多額の費用をかけることが「棚野の千両祭」の名前の由来と言われています。

奉納芸は、豊郷の獅子舞を先頭に、盛郷・福居の刀踊り、豊郷の振踊(姫踊)、高野の神楽、鶴ヶ岡の神楽と依振りと続きます。それらには、曳山形式の屋台に乗った、大太鼓による囃子が伴っています。



▲大字豊郷の姫踊り衣装を着け花笠をかぶる子どもたち

▼大字盛郷・福居の大太鼓棒振り・太刀振りの奉納芸の場面



「地域活性化活動の紹介」美山地域編

令和2年に大祭を開催するため、諏訪神社大祭準備委員会で協議を重ねてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止を余儀なくされました。

すべての奉納芸の継承は口伝が原則と言われ、15年ごとの節目を迎えるにあたって、奉納芸の技法、衣装の着付け、祭礼道具の維持管理、人数の確保といった課題も多く、貴重な祭礼芸能を後世にどう残していくのかが地域の悩みでもありました。

そこで、文化庁の令和3年度文化芸術振興費補助事業を活用し、伝統芸能の奉納芸を映像として残すとともに記録冊子の作成も行い、継承に向けた道筋をつけることができました。各大字の映像収録は、本番さながらの真剣そのもので、教える師匠

▲完成した記録冊子



▲完成した動画記録のDVD。7時間半に及ぶ

▼大字豊郷 新発知(しんぼち)が紙垂を振りかざし、「エイヤ、言ハ、シットロト」と言葉を発する



▲大字高野の豪華に飾り付けられた山車が完成



に、初めて参加した子どもたちから芸の継承者となった大人たち、見守る住民も一体となって、鶴ヶ岡地域の伝統芸能に熱い視線が送られ、収録には300名以上の住民が参加しました。

過疎化・少子高齢化の著しい地域にあって、連綿と受け継がれてきた「棚野の千両祭」の継承に希望が生まれ、次期催行への期待が高まった取組でした。

地域でお手伝いできることがあれば、ぜひお声をください。

問い合わせ先 集落支援員室
TEL(0771)68-0108

子どもたちが考えた健幸食育レシピが
レストランのメニューになりました！



なんたん
健康で幸せなまちづくりのために

健幸レストランオープン
園部城まつり(5/3)

やわらかな陽の光とかぐわしい
早緑の息吹がとてうれしくて、
スニーカーで出かけたくなるよう
な5月3日、園部公園に、そのレ
ストランは開店しました。

芝生の上のテラス席では、家族
や友人と食事を楽しむ風景が見ら
れ、「出汁がきいていて、とてもお
いしい」、「野菜がおいしくとれて
うれしい」などの声が聞かれまし
た。

すべてのメニューは、南丹市健
幸食育レシピコンテスト(令和2年
度から市内の小中学生を対象に実
施)の受賞作品から、レストランの
実行委員会が選び、プロの料理人
が調理し、販売されました。



カルシウムたっぷり
ふわとろオムライス



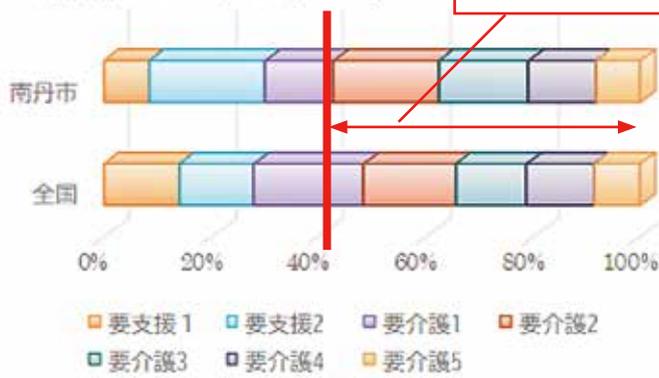
←受賞レシピ集は
こちらからご覧ください。

健幸食育レシピコンテストと
住民の健康課題

市内の小中学生にメニューづく
りに取り組んでもらっている背景
の一つには、南丹市の住民の健康
課題として、要介護2以上の方が
全国平均より多いこと、その要因
として、生活習慣病が悪化傾向に
あることが分かっており、住民の
健康への意識を高めることが必要
です。

介護認定の状況(R3.3)

要介護2以上が
全国平均より多い



幼いころからの健康の意識づくり
と家族まるごと健幸づくり

生活習慣病の悪化を防ぐには、食生活と運動習慣の改善が重要です。野菜やキノコ類から食べる、一日に必要な350グラムの野菜をとる、塩分を控える、バランスのとれた食事をとる。そして、年齢に応じた運動習慣を身に付けましょう。



当レシピコンテストは、住民の健康課題の解決のために、小さいころから健康を意識し、家族で楽しみながら取り組むことで、家族が丸ごと健康で幸せになっただけでなく、大事な人とおいしさの笑顔が広がるように、今年もレシピコンテストを開催します。
【募集要項は、夏休みまでに、学校を通じて配布します。】

産官学・食の連携レポート みんなでサツマイモ植え

一般社団法人
京都丹波もん ×
府立農芸高校 ×
市内保育所



5月23日、南丹市の若手農業者を中心に組織された一般社団法人京都丹波もん(代表理事 東智也さん)が発起人となり、府立農芸高校、市内園部地区の保育所と連携し、サツマイモの苗の植え付けが行われました。

府立農芸高校の学生が育てたサツマイモの苗を園児が植え付け、秋に収穫し、そして、食べる。農育と食育を体感してもらうことがこの事業の趣旨です。

京都丹波もんのメンバーから苗の植え付けを教えてもらった園児たちは、しっかりと畑の土を踏みしめながら、楽しそうに約600

本の苗を植え付けました。京都丹波もんの大人も、子どもたちの姿に元気づけられ、幸せそうでした。

今後は、南丹市全域を対象にして取り組みを広げていきたい。園児だけでなく、小学生にも体験をしてほしいと事業の拡大を話されています。

今回植えた苗は、10月頃に収穫体験を行い、収穫後、ひと月ほど熟成させた甘いサツマイモを食べることになります。

「自尊と自律」を育てる市の幼児教育では、こうした食の体験を通じて、子ども達が、自然の営みや生物の時間の流れを感じ、生きるチカラを身に付けることを意図しています。

「いきいき南丹」と「食は、ひとづくり、まちづくり」を統合し、「なんたん健幸・ノート」としてリニューアルしました。

食と健康を総合的に発信し、住民の皆様とともに健康で幸せなまちづくりを展開します。

問い合わせ先 保健医療課
TEL(0771)68-0016

「八木西 大好き」

「八木西 大好き」
これは、本校の合言葉です。スタートダッシュのような八木西大好きポーズとともに、八木西小学校の子どもたちのみならず、保護者の間にも浸透しています。この合言葉で、元気な時も、少ししんどいなあと感じる時も、「みんながいてくれるから。」という思いで一步を踏み出すパワーをもらうことができます。

今年度は21名の1年生を迎え、全校児童は139名となりました。4月当初は6年生が1年生をしつかりサポートし、朝の準備や給食の用意の仕方などを優しく教えてくれました。4月末には「城山登山」という、校区にある「城山」をフレンド班(縦割り班)で登る行事があり、道幅が狭かったり、足の置き場に困るような危険な箇所もあったりしましたが、お互いに声を掛け合い、時には手を引っ張ったり後ろから押してあげたりしながら、参加した全員が登り切りました。そして山頂ではみんなで校歌を歌うことができました。この取組を通して、学年を超えた絆が生まれたように思います。

また本校は「あいさつ」にも力を入れています。PTAや民生児童委員

さん、保護司さん、地域の方にも登校指導をお世話になり、子どもたちの様子を見守っていただいています。また月に1度「あいさつday」として、学年ごとに交代で子どもたちが校門に立ち、元気にあいさつをしています。友達にあいさつをされると、自然と笑顔になれる子どもたちの様子が見られています。

このように、学校・地域・保護者の方など様々なところから子どもたちは見守られ、励まされているおかげで、安心して学校生活を送ることができています。今年度も、元気いっぱい「八木西 大好き」と言える子どもたちを育成できるように、一人一人を大切にされた教育を推進していきます。



▲令和5年4月28日 城山登山より

南丹市立八木西小学校

人権教育主任 松下 悠香里

ふ・れ・あ・い



生きるマーク

—第61回—

社会を明るくする運動

昭和24年に、貧困による少年の非行が社会問題となっていた状況に心を痛めた東京・銀座商店街の人たちが、犯罪や非行の予防を広く訴える「銀座フェア」を開催しました。この活動をきっかけに、昭和26年から「社会を明るくする運動」として全国的に展開されることとなりました。

平成22年、新名称「社会を明るくする運動」犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」が定められました。運動の趣旨を分かりやすくしたこの新名称のもと、地域に根ざした国民運動として一層の推進が図られ、今年で第73回目を迎えます。

南丹市では、更生保護の取

組への理解を深めることを目的に、保護司・更生保護女性会の方々など各種団体の皆様のお世話になり、市内各地域での啓発活動等を行っています。

更生保護とは、犯罪や非行を防止し、あやまちを犯した人の立ち直りを地域社会の中で助けていく活動です。

立ち直ろうとする意思を、地域社会の一人ひとりが受け入れ、あやまちを繰り返すことのない社会を築く「地域のチカラ」を高めることは難しいことと思われがちですが、家庭や地域に住む人との絆を強くすることや、地域での交流を深める催しに参加するなど、できることから始めてみてはいかがでしょうか。

犯罪や非行のない社会は、そのような一歩から生まれます。

「生きるマーク」は、更生保護のシンボルマークです。甲骨文・金文の「生」をモチーフに、樹木の芽が伸びていくように、今、そして未来を生きていく様を表現されています。

(人権政策課)



イメージキャラクター“なびっと”

いっしょに読もう！

0才から楽しめる絵本リスト

絵本リスト『いっしょによもう』を作成しました。

初めて絵本にふれる0才〜3才くらいまでのお子さんに

おすすめの絵本を『あそび』の

りもの『たべもの・せいかつ』

『ことば』『いきもの』の5項目

に分けて紹介しています。南丹市立図書館で配布している

他、乳児健診で行っているブックスタート事業でもお配

りしています。

赤ちゃんとのふれあいの時間、もし絵本選びに困ったら

『いっしょによもう』を開いてみてください。

すてきな絵本はまだたくさんあります。

お気に入りを入れてね。ぜひ図書館の絵本コーナー

をのぞいてみてください。

新刊紹介



『かめのカメラさん おうちをなおす』

作…植垣 歩子
発行…理論社



古いおうちを買ったカメラさんは、へび、カエル、こびと、おばけが店主の楽しいリフォーム店を訪ねて回ります。カメラさんはどんなおうちにするのでしょうか？

『種をあやす 在来種野菜と暮らした40年のことば』

著者…岩崎 政利
発行…亜紀書房



流通に乗らないような在来種野菜は、自家用に作られ、種を採る人がなければ途絶えてしまいます。全国の農家から種を託され、守り繋げていく著者の人生、野菜との暮らしがつつられています。

暮らしと



—第86回—
消費生活情報

意図せぬリボ払いに注意！
利用明細は必ず確認を

(独)国民生活センター
見守り新鮮情報から

事例1 クレジットカードの請求が利用金額より少ないと思っていたが、明細はアプリなので面倒で見ていなかった。確認すると、申し込み時からリボ払いで、100万円近い残額があることが分かった。(60歳代女性)

事例2 解約したクレジットカードの請求が来るのでカード会社に尋ねると「リボ払いになっており、支払いが必要」と言われた。知らずにリボ払いになっていたことに納得がいかない。(70歳代男性)



★ひとこと助言★

●リボルビング払い(リボ払い)は、利用金額や利用件数にかかわらず、設定した一定額を毎月支払うクレジットカードの支払い方法です。月々の支払いを一

定に抑えられる一方、支払いが長期化し手数料がかさむなどの点に注意が必要です。

●初期設定で支払い方法がリボ払いになっているカードや、リボ払い専用カードもあります。申し込み時には、よく確認しましょう。

●利用明細は必ず確認してください。手数料の記載がある、利用額に比べ請求額が少ないなどの場合はリボ払いが考えられます。不審に感じたらすぐにカード会社に確認しましょう。

●困ったときは、消費生活相談窓口にご相談ください。

一人で悩まずにご相談ください

●商品やサービス購入でお困りごと、不審に思うことがあります。したら迷わずにご相談ください。

お気軽にご相談ください

- 消費者ホットライン
TEL188(いややー)
 - 南丹市消費生活相談窓口
TEL(0771)68-0100
 - 京丹波町消費生活相談窓口
TEL(0771)82-3803
- 月曜・火曜・金曜(祝日は休み)
午前9時〜午後4時
水曜・木曜(祝日は休み)
午前9時30分〜午後4時

(商工課)

堰水好日

えんすい
なつかひ
市長
プログラム

◆昨春秋、京都観世会館にて能を鑑賞する機会があった。きっかけは6月に殿田小学校で梅若家能楽鑑賞会が開かれ重要無形文化財総合指定保持者の梅若長左衛門さんらが来校の折、秋の「京都梅若能公演」をご案内いただいたからだ。

◆この日は人間国宝である梅若実さんが桜雪という雅号(芸名)を観世流宗家から授与された記念の能舞台であった。能に疎遠で興味が薄い私でも、極めて簡素な表現形式によって人間の感情を繊細に表現する桜雪さんの舞台に引き込まれた。一体なぜ一見無表情な能面をつけ、舞台上で豊かな表情が演じられるか不思議に思う。

◆さて、能楽の梅若家は南丹市に縁が深い。梅若家は後に能楽と改称した猿楽の有力な一派(丹波猿楽)で、鎌倉時代までには京都梅津から丹波地方に移り住み、日吉町殿田に拠点を置く。織田信長方として明智光秀に仕え、後に徳川家や地元園部藩からも庇護を受けていた。

◆梅若家41世梅若氏久は殿田中学校南側の丘陵に「世木の御殿」と呼ばれた立派な屋敷を構えたが、その後江戸中期に梅若家は徳川家の能楽師として江戸に移り住む。しかしこの殿

田の地は最も大切な場所。菩提寺である殿田山曹源寺に多くの一族の位牌、梅若屋敷跡の麓には梅若家墓地在りまで守られている。

◆地元「世木の伝統芸能を守る会」などでは近年地域の歴史と文化をまちづくりを生かそうと活発な活動を展開。その柱の一つが「世木と梅若と能」。歴史紹介資料づくりと併せ梅若家との交流、梅若屋敷跡の整備や能教室開催、そして殿田小学校での梅若能鑑賞会実施と多彩。能教室に子供たちも参加し、鑑賞会では小学生が練習を積んだ地謡を披露。地域の歴史と文化を全身で学んでいる。

◆地域挙げての取り組みに感銘を受け、梅若長左衛門さんをはじめ一門の皆さんは、是非「梅若流発祥の地」である南丹市で能の本格的な公演を行いたいと市への協力要請があった。勿論全面協力を約束。アスエルそのべを会場に9月24日に開催を計画いただいた。

◆梅若長左衛門さんは秋の公演を丹波地方では「およそ400年ぶりの凱旋公演」と大変な意気込み。是非この「里帰り公演」を会場満席にて成功させたい。併せて日本の伝統芸能・ユネスコ無形文化遺産である能楽愛好者を増やし、「梅若能のまち南丹市」を息長く育てていきたい。



▲庭のフタバアオイの花

南丹市長 西村良平

〈お詫びと訂正〉

広報なんたん4・5月号の記事に次のとおり誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

6ページ
みんなのひろば「山村留学25年の歴史に暮らす」
(誤)1988年
(正)1998年

12ページ
令和4年度南丹市表彰式

(誤)山中 卓
(正)山中 拓

13ページ
(誤)朝倉 渥己(北桑田高等学校)

(正)朝倉 渥己(園部高等学校)

14ページ
(誤)小島 うた(殿田小学校)

(正)小島 うた(胡麻郷小学校)

(誤)塩内 京園部中学校

(正)塩内 京殿田中学校

(誤)奥村 文香(美山中学校)

(正)奥村 文香(園部中学校)

●総人口：30,307人(+5)
(男：14,733人・女：15,574人)
(±0) (+5)
●世帯数：14,401世帯(+33)
(令和5年6月1日現在)
()内は前月比



市の花 さくら 市の木 ふな 市の鳥 オオルリ

森・里・街・ひとがきらめくふるさと 南丹市 なんたんし

広報
なんたん

編集・発行：南丹市役所 市長公室秘書広報課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0065 FAX:0771-63-0653
URL:https://www.city.nantan.kyoto.jp/www/
e-mail:hisyo@city.nantan.lg.jp



本紙は環境への配慮から、FSC®森林認証紙、ベジタブルインク(植物油)を採用しています。